

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472300609
法人名	株式会社 ひだまり荘
事業所名	ひだまり荘
訪問調査日	平成 20 年 12 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4472300609
法人名	株式会社 ひだまり荘
事業所名	ひだまり荘
所在地	〒879-5433 大分県由布市庄内町高岡491番地 (電話) 097-582-8100・8200

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市頭徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成20年12月22日
評価確定日	

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 11.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理共益費 ¥15,000
敷金	有(円)		(無)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	8 名	要介護4	6 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.8 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄内診療所(内科・整形外科) おざきホームケアクリニック(内科・循環器科・呼吸器科・消化器科)
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

・設立者の親族が施設を選択する際に地元では入れるところがなく、「それならこの地域に自分たちで作ってしまおう」ということで始まった。家族の立場の人たちが設立したホームなので当事者性が表れていて、明るく家庭的な雰囲気になり、地域とのつながりをとても大事にしている。

・近隣住民や学校・自治会・老人会等との関わりが非常に深く、単に地域の一員としての役割に止まらず、地域の中核の一端を担う社会資源として機能している。

・運営者、管理者、職員共に、理念の追究をたゆまず、改善できることはすぐに着手し、新しいことを取り入れるのに労を厭わず、進取の気風に満ちている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	気付いたこと、改められることはすぐに実行することをモットーにしている。前回評価では取組みがなされていても、書類に記載されていないなかったり、書類そのものが揃えられていないものが見受けられた。それを指摘され、理念の文言の追加、改善計画シートや研修計画書等の作成がなされた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価に対して、気付きを得る良い機会であると捉えていて、その意義を職員全員が理解した上で取組みがなされている。運営者・管理者が記入したものを元に、全職員で意見交換を行いながら自己評価票を作成した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議への委員や家族の参加が少ないが、施設開設以来、各委員等の積極的な提言を先取りし、ひたむきに取り組んできた施設側の成果の現われでもある。討議内容は、後期高齢者が大半だけに、一日一日をより有意義で思い出深い日常生活が送れるよう、更なる取り組みをどのようにしていくかという事に集約されるが、施設を支える小中学校や近隣者などの地域資源を有効に活用して取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	常日頃から家族の訪問は恒常的に継続されており、施設や事務室にも曜日・時間帯に関係なく気軽に訪問している。経営者をはじめ全職員が、入所者を家族の一員として処遇しており、家族の要望や苦情・意向・不安などは、些細な事も十二分に伝えられる環境にあり、家族とのコミュニケーションは万全で、おおいに反映されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

施設運営の信条の一つに、地域との共生を必要不可欠の資源とする姿勢が全職員の言動に身についており、日常生活において地域との連携なしに施設の健全な運営が成り立たないとの雰囲気が随所に見受けられる。特に認知症への理解を含めて、施設開設以来、積極的に地域との交流・支援等に取り組んだ成果が今では地域に不可欠な施設として容認されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①「利用者第一」や「プライバシーの尊重」を通して築く信頼関係、②地域との交流、が理念として謳われている。理念について、題目だけにならないように日々の実践の中で色々と考え、強化・更新させていくものと捉えています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者が場面々々で理念について考えるきっかけを提示し、職員はそれに応じて実践した後、ホーム全体にフィードバックさせていく等、理念が職員一人ひとりに浸透しホームの一体化が図られているかを絶えず意識しながら日々の活動に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・学校・老人会等地域の社会資源と双方向的な交流が図られている。近隣の住民に対しても、職員が所用で外出する際に通りがかりの独居高齢者のお宅に顔を出し、ちょっとしたお手伝いをしていくなど、積極的に地域の中に入っていき姿勢が見られます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は、運営者・管理者がたたき台を作った上で、全職員で意見交換を行いながら作成した。評価で見出された課題は、改善計画シートに記録しながら、取り組めることから即実施していった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族、市議会議員、民生委員、元社協局長、行政関係者等で構成され、2ヶ月に一度開催されている。ホームの活動状況、地域やホームの行事等の話し合いが行われている。今後一層の助言・提言を受けてホームの運営に生かしていくためにも、まず運営推進委員にホームの理念や高齢者・認知症について知ってもらうことが大切と考え、啓蒙・啓発に力を入れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に定期的な情報提供等の連絡は取っているが、その一方で、地域に向けて広く活動している故に、行政とはもっと深い関わりをもっていきたいと考え積極的な働きかけを行っていますが、行政側に対応してもらえていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ひだまり新聞」を発行し、ホーム全般の暮らしの様子が家族に伝わるように努めている。写真の点数も多く、なるべく多くの利用者が写っているように工夫されている。新聞と併せて、個々の利用者の生活や健康状態を記入した用紙を家族のもとに届けています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一度家族会を開催しているが、参加者は少ない。一方で多くの家族が面会に良く来てくれるので、個別に話ができる機会と捉え積極的意義を感じて臨んでいる。家族から率直な意見を聞かせてもらえるように、家族を対象に無記名のアンケート調査を実施しました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者も居らず異動もほとんど行われていない。そういうことがあった時に備えて、ユニット間同士で行事は連合して実施する等別ユニットの職員とも顔なじみの関係を作っていくように努めている。また職員に異動があった際には暫くの間は顔を出してもらおう等の配慮を念頭に置いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては、職員に情報を提供し希望者を募って参加させるものと、ホーム側から職員の段階に応じて参加要請するものに分かれている。受講した職員が研修報告することで成果を共有できるようにしている。内部研修については、研修計画書に基づいて、毎月定期的開催されています。	○	シフトの都合等によって、研修報告の場に参加できない職員もいるため、成果を共有するための書面を作成し、閲覧できる状況をつくることが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会に参加し、事業内容報告・意見交換等を行っている。また、他の施設職員との交流を図るためバレー大会に参加しました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設側の意向で入所を勧めるのではなく、他施設の見学を勧め比較検討した上で、更に短期入所を経験させ、その短期入所期間中を含め、もし途中で馴染めない場合が生じた時には一旦帰宅させて再考させるなど、万全の手順を踏んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所者の日常生活を、職員が常に共に行動する環境下にある。同じ食事を共に執り、共に歌い、共に遊び、共に笑うなどの言動をとっている。また一年以上面会に来ない家族には、写真付きの近況報告を提供し、家族が入所者の現状を把握できるように仕向けており、家族と入所者、施設の三者で支えようとする姿勢が見えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設運営中心者等の福祉に対する真摯な姿勢が全職員に浸透しており、全職員が入所者を家族の一員として接している結果、入所者個々の意向や希望等を積極的に把握できている。毎月発行の「ひだまり新聞」の端々にもその姿勢が顕著であり、本人本位の意向要望が反映できています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設には2ユニットあるが、入所者の個々のケアプラン作成段階で、介護支援専門員資格を持つ計画作成担当者を中心に職員全員で意見交換を行いながら作成している。その結果、全職員が入所者の状況を共有・把握し易い環境にあり、本人や家族等の意向なども職員を通して十二分に反映されています。	○	介護計画を含め大部分の事務が手書きで、事務処理が大きな負担です。早急にパソコンなどのAV機器の活用を図り、平易で簡略化された事務処理が可能になる必要があります。誰でも、何時でも自由に打ち込め、閲覧できることが大事であり、もし実現できれば、全職員がより理想的に業務の充実に集中できると思われれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成段階で、全職員が入所者や家族の意向・状況などを共有・把握しており、状況の変化や要望・意向などを、その時々々の現状に即した介護計画に反映しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所にはGHだけでなく、ケアプランセンター等の諸施設があるが、経営者の運営姿勢を象徴する「暖かい人の手」・「心の通い合う」・「家庭的な生活」をモットーにした連携が各施設で徹底されている。その個々の施設機能は有機的かつ相乗的に結び付いており、現時点のGHとしては理想的に活用されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者にとって、入所以前の居住地が県外を含めて広範囲であり、庄内地域のかかりつけ医とは別に大分市内を含めて、あくまで本人や家族の要望や意向を第一義に考慮して対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最高齢が98歳で平均年齢が86歳弱である現実を考慮すれば、重度化や終末期のあり方は避けて通れないテーマです。入所者や家族には、かかりつけ医療関係者を交えた話し合いを常日頃から持っており、全職員もその話し合いに参加する事で、万が一の場合を想定した万全の体制を共有しようとしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者第一＋プライバシーの尊重＝信頼関係」の理念を掲げ、全職員が社内研修・定期研修(月1回)・ミーティング等で利用者の誇りを尊重しプライバシーの確保に配慮し支援をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気持ちや体調に配慮し、その日にどのように過ごしたいか、職員が利用者に合わせた個別で柔軟な支援をしている。又昼寝は居室で休む人・長椅子に横になる人・車椅子でくつろぐ人等、職員が見守るなかでゆったりとした生活をおくっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は学校給食の栄養士さんが作成している。食材の下ごしらえも利用者到手伝してもらいながら、美味しいものを楽しく食べるための工夫(食事は見た目大事という意識)がなされている。利用者職員が同じテーブルで楽しく会話をしながら、同じ食事を食べています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間3回の入浴支援をしている。職員を増員して利用者の入浴希望に添えるよう支援をしている。車椅子の利用者には同時に二人の職員が支援をしている。季節を感じていただけるように、ゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいただいています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみを見つけ、女性には食事の下ごしらえ・配膳・洗濯物たたみ等、又男性にはうどんの麺切り・レクリエーションの準備等の力仕事において、利用者の気持ちに寄り添いながら役割や楽しみになるよう支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の状態を見極めて、ホームの前庭での散歩又近くのバラ園まで散歩をかねて外出の支援をしている。グループホーム所有の大型バスでホームの利用者や地域の高齢者を県内のデパートや植物公園・空港などの観光施設など戸外へドライブをかねて積極的に外出を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知できるよう、職員が目を話さない方法を徹底し自由に過ごせるよう、鍵をかけないで支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに基づき、年間2回消防署・警察署の協力により消防訓練・避難訓練を実施しており、地域の消防団にも協力を依頼し連携体制が確立している。又、職員3名が防火管理者の資格を取得し訓練に参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表により食事摂取量をだまかに把握、又嗜好品を把握栄養バランスに配慮している。摂取量が著しく低下している利用者については、かかりつけ医に相談観察しながら個別に食欲を促すように支援をしています。	○	ケアチェック表等により利用者一人ひとり水分の摂取状況を記録し、全職員が情報を共有できるよう改善を望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の生活空間(食堂・居間)からは、1年を通して風景の移り変わりが見られ、利用者が毎日、朝日を拝む等居心地のよい居住空間作りに配慮が見られる。畳の部屋は腰掛けてくつろげるように工夫され改善が施されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室は、好みや馴染みで使い慣れたダンスや寝具・神棚等が持ち込まれており、居心地のよい居室づくりに配慮が見られます。壁には家族の写真や絵・カレンダーを飾り、泊まりの部屋に合った環境作りに工夫がされています。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひだまり荘
(ユニット名)	(東)
所在地 (県・市町村名)	大分県由布市庄内町高岡491
記入者名 (管理者)	立川 由美
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>玄関の見やすい場所に掲示している。利用者及び家族に契約時に説明している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の申し送りや毎月の会議で理念を明確にし、それに基づきケアにあたっている。 また、管理者は必要と思われる際にはその都度、個別に職員に働きかけている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議、地域住民を誘ってのバス旅行でひだまり荘での取り組みをはじめ、理念の浸透を図っている。 また、家族向けに新聞を作成し、活動内容から理念を浸透させていくように取り組んでいる。 その他で必要と判断した際には、家族に個別に働きかけている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自宅で採れた野菜を持ってきてくれたり、自宅の柿を全部とっていいよと利用者を招待してくれたりと、地域住民の方も協力的で、利用者の生き生きとした自然な表情を出せる地域になりつつあるように感じています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域主催の行事などには積極的に参加し、地域住民が立ち寄りやすい関係作りに努めている。(近所のお婆ちゃんと一緒に昼食など) また、徒歩5分の小学校と定期的な交流を図っており、保護者の皆さんから餅つき等に利用者を誘っていただいて交流している。ひだまり荘が主催する敬老会にも地域住民をお誘いし交流を図り、友好関係が築けている。近隣の幼稚園の園児にひだまり荘で発表会をしてもらったり、小学校の児童が定期的に訪問してくれ、利用者や遊んだり職員が小学校を訪問して授業を行ったりしている。また中学校の生徒は体験学習を通じ生徒会など様々な取り組みを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では毎月定期的に研修を行っている。施設外での研修は実践者研修や管理者研修などを積極的に参加できるように勤務の一環で研修に出ている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県内の事業者でつくる「井戸端会議」に参加し、事業内容の報告を行ったりとした勉強会を行っている。職員の交流を目的とするバレー大会に参加し、他施設の職員との交流を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニット対抗でバレー大会やボウリング大会など行い賞金で食事をしたりしチームワークを強化している。また定期的に旅行に行きリフレッシュを図っている。運営者は職員に金銭的な負担を掛けないように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の家庭環境を把握したうえで、勤務の形態を考慮し、無理のない労働環境を整備するように努めている。勤務希望も最大限生かせるようにしている。ここ数年退職者が減少している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、利用者が不安に思っていることを聞き、本人の意思決定が可能であれば利用者が安心できるように、施設見学をすすめ、利用後も、環境の変化に対応できるように、職員全体で支えるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設決定をする時に、他の施設を見学し情報をもって選ぶことを勧めている。その中で、不安を取り除きながら、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。また、不安なことはいつでも相談してもらえるよう、ご家族に伝えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスを受けたことがない利用希望者には、様々な選択肢があることを伝えており、必要と思われる介護サービスを紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その時々でケースは違うが、短期で利用してみて判断していただいたり、利用者の心身の状況、生活歴などを踏まえ、自分の居場所となるような支援を行っている。本人が入居に納得しなければ、心の通った介護が出来ませんので、ご家族とよく話し合っています。その後、施設と家族が協力し合いご本人の生活をサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、頼りになる、頼っても嫌がらんないちゃん、ねえちゃんになれるように心がけている。食事と一緒に同じ物を食べ、一緒に歌い、遊び、笑いを共有できる関係をつくっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居の際にこのことは良くお願いし、預けたら終わりではなく、共に支えていくようお願いしています。行事の積極的な参加を新聞を通じ、積極的に働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係の悪化から利用された方も、適度な距離が保てたこともあり家族も穏やかになられ、面会の回数や面会時間が長くなり、徐々に関係の改善が図られている家族もある。多数の家族と利用者の関係は良好なところが多い。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が一番強く思う場所を訪れたり、その場所で昔ながらの友人に出会ったりとできる支援を行ったり、若い頃なのか若い頃の思い出のお祭りに行ってみたり、可能な限り支援を試みている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士好き嫌いがあってもおかしくないと考え、職員がクッションの役目を果たし、円滑な利用者同士の関係が保てるように努めている。要介護1の方が要介護4の方のお世話をしたりする姿があったりと自然と関係が家族のようになっていくことも。お互いが助けあい、支えあって声を掛け合う姿を見かけることがあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療ニーズが高まり、継続的な利用が困難になった利用者の面会に職員は積極的に訪れ、利用終了後も職員の強い思いが表れている。これは、運営者や管理者の指示ではなく自発的に職員が行動しており、職員の意識が向上してきた成果だと感じる。また、退去された方や亡くなられた方の家族との交流も続いており、折々に手紙を出したり、電話をいただいたり、野菜をたくさん届けてくれたりと良い関係を続けられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人の意向にそえるように努めている。家族の想いも伺い、本人のより良い生活を支援できるように努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントとしてセンター方式を用い、家族にも過去の生活歴や馴染みの暮らし方を記入してもらっている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の内容の一部を総合的に把握できるように努めている。	○	出来ることと出来ないことの見極めをしっかりと行い、出来ることを維持できるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には随時必要に応じて聞き取り、家族には面会時などに話し合う機会を設けるように努めている。また、体調不良の方には医師へ相談し、今後の介護方法を検討し作成している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化時、家族、医師と話し合い、今必要な介護を計画に入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記載し、毎月の会議にて職員全体で実践状況を報告し、ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ柔軟に対応できるように努めている。独居の自宅の布団干しや、簡単な掃除、郵便受けの確認を行ったり、病院へ通院する場合の送迎付き添いを場合に応じて行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の理髪店に月1回来て頂いている。幼稚園・小学校・中学校と協力し様々な活動を行っている。ボランティアにも随時きていただき話し相手や散歩の付き添い等、協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の介護サービスは利用できませんが、地域の老人会へ顔を出したり、地域の行事へ参加したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要な対象者がいない。	○	今後定期的な話し合いの場がもたれる予定
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先し、かかりつけ医を決定している。施設は利用者の心身の状況の変化や日々の健康状態などの情報を提供し適切な医療が受けられるようにサポートしている。大分市内のかかりつけ医の方もおられ送迎付き添いも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>社内研修や定期研修、ミーティング時に注意を促している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>常に本人に希望をとり、意思決定できるように促したり、家族の意向を伺った上で支援するように努めている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>その日に限らず、どのように生活したいか(散歩に行きたい。どこか遊びに出掛けたい。どんなレクをしたい。)などを取り入れて極力意向に沿えるように配慮している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>元気な頃は馴染みの美容室を利用していたが、現在は身体的な衰えに加え金銭的な問題から訪問理髪店を利用する方が多い。髪染めを希望する際は家族と相談しこちらで染めたり、家族が染めたり本人と家族がどうしたいのかによって、それぞれ違う対応をしている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食事の準備を役割の一つとして捉え、配膳、お膳拭きなど利用者の心身の状況に配慮し分担を行っている。食材の下ごしらえなども手伝っていただいている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>開設当時は喫煙ができていたが、長崎の火災を機に利用者の禁煙を行った。飲酒については、利用者の健康状態に配慮し適度に飲酒している。おやつは、リクエストにこたえて、希望のおやつを手作りしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を心の傷にしないため、他者に気付かれないように対応し極力オムツを使用せず、トイレで排泄できるようにしている。排泄記録をとり、排泄パターンを把握しペースに合わせ誘導を行っている。リハビリパンツからパンツへ移行できるように努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決まっているが、職員を増員し、一人ひとりの希望に添えるようにしている。また、汚れた都度行っているので、一日に何回も入浴される方もいらっしゃる。入浴が楽しめる季節を感じられるように、ゆず湯やしょうぶ湯等行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前に使い親しんだ馴染みの寝具を持ってきていただき、落ち着いて休めるようにしている。室内環境の整理、布団干し、シーツ交換も天気の良い日に行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性には、食事の下ごしらえ、配膳、お膳拭き洗濯物たたみ男性には、力仕事(うどんの麺切り)レクリエーションの準備をしていただいているが、一人ひとりの希望や好みを反映させる為カラオケや運動、散歩など楽しめるようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援のサービスとして外出して自分で欲しいものを自分で決定し、自分でお金の支払いをする支援を行っている。日常的には施設内に売店を設け、欲しいものを購入する機会を設けている。(ただし、購入できる個数をチェックし、買ったものを職員が把握しており栄養バランスや食べ過ぎによる体調不良を防げるようにしている。)		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば散歩に出かけたり、庭に出たりする。本人の希望だけでなく天気の良い日は職員が働きかけて、散歩にでかけている。日中玄関には鍵がかかっていないので閉鎖的にならず、開放的でいつでも外に出られる環境にしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を選んでひだまり荘のバスで定期的な外出を行うようにしている。(田ノ浦海岸、高塚地蔵尊、大分空港、七瀬川公園、湯布院、豊後高田昭和の町、佐賀関、佐野植物公園、芹川ダム、男池、デパートなど)	○	車椅子の方でも行ける所を探していこうと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な研修内容として取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回消防署員を要請し消防訓練を行っている。また、地域の消防団へ依頼し、協力してもらえるようにしている。	○	地域住民の方も協力的であるが、連絡体制がまだできていないので、今後運営推進会議で検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や利用者の心身の状況や健康状態を把握し、その都度利用者家族にリスクを説明している。特に高齢で転倒のリスクが高い方が多いので、残存機能の維持、向上の面から考えても抑圧せずに、リスクはあるがその人らしい生活を優先したいと相談し介護方針を決定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別の変化に速やかに対応する為、職員間の情報の共有を図り、記録をする。体調の変化だけでなく、異変に気付くことで行方不明の兆候や行動障害を察知出来ることもあるため、職員の観察力があがるように職員同士の情報の共有を大切にしている。「気付き」の共有。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の把握は困難な為、副作用で気を付けなくてはならないものや、血圧、糖尿など食事の摂取量で服薬を判断しなければならぬものを中心に把握している。また、服薬の内容と副作用がすぐに判断できるようにまとめている。薬で分からないことは薬剤師、医師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方の服薬状況の把握や、食事・排便チェック表を作成し、排便の頻度を把握した上で、医師との相談で服薬コントロールを行う。また、同時に運動も行うように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個別に口腔ケアを行っている。 また、協力歯科による、往診や通院により口腔内の健康管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具、仏壇を持ち込めることを伝え、可能な限り本人の物を使っていただく。また、壁にも好きな写真や絵を飾ったりと自由に居室を使えるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場は、自然の風が入るので換気は常に出来ている。冬場は2時間に1回換気を行い空気のだよみを取り除いている。また、殺菌、消臭、ノロウィルス、インフルエンザ、O-157、対策として、微酸性電解水と強酸性水を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使いにくいと判断した際は可能な限り改善している。入浴スペースが狭い→増築し拡大。手すりの設置など。ベットの高さの調整、ベットの宮を手作りで製作する等、個人の状態や希望に合わせて対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメントを参考に工夫している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	動きのある庭づくり(滝)小鳥のさえずり(鳥小屋)野菜作り(菜園) 個別のスペースの確保(テラスやウッドデッキ)で仲の良い者同士の憩いの場として活用。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念にあるように、信頼関係を築く為、職員一同日々努力しています。

職員側からの見方ではなく、入居者の目線に立った見方で、介護ができるように、職員で話し合いをしています。

入居者のこれまでしてこられた普通の生活をこれからも同じように提供できるようにしていきたいと考えています。

職員が第二の家族と思ってもらえるように頑張りたいと思います。

34人乗りの観光バスを購入し、月に1～2回外出をしています。

みんなでバスに乗って出掛けるのは、非日常的で老若男女問わずワクワク・ドキドキするもので、皆さんに大変喜んでもらっています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかざる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひだまり荘
(ユニット名)	(西)
所在地 (県・市町村名)	大分県由布市庄内町高岡491
記入者名 (管理者)	藤松 竹子
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関の見やすい場所に掲示している。利用者及び家族に契約時に説明している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや毎月の会議で理念を明確にし、それに基づきケアにあたっている。 また、管理者は必要と思われる際にはその都度、個別に職員に働きかけている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議、地域住民を誘ってのバス旅行でひだまり荘での取り組みをはじめ、理念の浸透を図っている。 また、家族向けに新聞を作成し、活動内容から理念を浸透させていくよう取り組んでいる。 その他で必要と判断した際には、家族に個別に働きかけている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自宅で採れた野菜を持ってきてくれたり、自宅の柿を全部とっていいよと利用者を招待してくれたり、地域住民の方も協力的で、利用者の生き生きとした自然な表情を出せる地域になりつつあるように感じています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催の行事などには積極的に参加し、地域住民が立ち寄りやすい関係作りに努めている。(近所のお婆ちゃんと一緒に昼食など) また、徒歩5分の小学校と定期的な交流を図っており、保護者の皆さんから餅つき等に利用者を誘っていただいて交流している。ひだまり荘が主催する敬老会にも地域住民をお誘いし交流を図り、友好関係が築けている。近隣の幼稚園の園児にひだまり荘で発表会をしてもらったり、小学校の児童が定期的に訪問してくれ、利用者と遊んだり職員が小学校を訪問して授業を行ったりしている。また中学校の生徒は体験学習を通じ生徒会など様々な取り組みを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を1つにまとめたことで契約が簡略化でき、その分、家族の利用者に対する想いを聞き、家族と一緒に介護するという意識を持っていただいている。契約や運営について説明を行っている。また、疑問点はいつでも相談して欲しいと伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>様々な意見、不満、苦情を言える利用者との関係づくりを大切にしている。言いたいことも言えない様では質の高いサービスは行えないと考えている。苦情を受け付けた職員は速やかに管理者に報告し改善策を職員全体で検討する。検討結果を運営者に報告するとともに、利用者にも結果を報告する。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の新聞で各月の活動内容が分かるように詳しく書いている。また、新聞ではわからない個々の健康状態や暮らしぶりは、個別に記入し毎月新聞などと一緒に同封している。金銭管理についても家族会や訪問時に出納簿を確認してもらい確認印とサインをいただくようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>目安箱を設置し、意見・苦情・相談を無記名で投稿できるようにしている。相談窓口を内部と外部に設け、速やかに対応できる体制を整えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃より運営者と職員が近い関係にあるので、意見などは言いやすいと感じる。毎日、運営者が近くにいるので困った事はすぐに言う事ができる。社長と個別に話す機会を年に2回設けており、直接相談する機会もある。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入浴時には職員を通常より多く配置し対応している。また、病院の受診付き添いには施設内に残る職員が減り、手薄になるのを防ぐ為、別に職員を配置し対応している。その他必要に応じ柔軟に対応するように努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当然のこととして人事異動を行う際は利用者へのダメージを考慮し行っている。必要でない限り、極力異動は行わないようにしている。この3年間は離職者もいない為、ダメージは少ないと思われる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修では毎月定期的に研修を行っている。施設外での研修は実践者研修や管理者研修などを積極的に参加できるように勤務の一環で研修に出ている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大分県内の事業者でつくる「井戸端会議」に参加し、事業内容の報告を行ったりとした勉強会を行っている。職員の交流を目的とするバレー大会に参加し、他施設の職員との交流を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ユニット対抗でバレー大会やボーリング大会など行い賞金で食事をしたりしチームワークを強化している。また定期的に旅行に行きリフレッシュを図っている。運営者は職員に金銭的な負担を掛けないように努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員の家庭環境を把握したうえで、勤務の形態を考慮し、無理のない労働環境を整備するように努めている。勤務希望も最大限生かせるようにしている。ここ数年退職者が減少している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでに、利用者が不安に思っていることを聞き、本人の意思決定が可能であれば利用者が安心できるように、施設見学をすすめ、利用後も、環境の変化に対応できるように、職員全体で支えるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設決定をする時に、他の施設を見学し情報をもって選ぶことを勧めている。その中で、不安を取り除きながら、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。また、不安なことはいつでも相談してもらえるよう、ご家族に伝えている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスを受けたことがない利用希望者には、様々な選択肢があることを伝えており、必要と思われる介護サービスを紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その時々でケースは違うが、短期で利用してみて判断していただいたり、利用者の心身の状況、生活歴などを踏まえ、自分の居場所となるような支援を行っている。本人が入居に納得しなければ、心の通った介護が出来ませんので、ご家族とよく話し合っています。その後、施設と家族が協力し合いご本人の生活をサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、頼りになる、頼っても嫌がらんにいちゃん、ねえちゃんになれるように心がけている。食事と一緒に同じ物を食べ、一緒に歌い、遊び、笑いを共有できる関係をつくっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居の際にこのことは良くお願いし、預けたら終わりではなく、共に支えていくようにお願いしています。行事の積極的な参加を新聞を通じ、積極的に働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係の悪化から利用された方も、適度な距離が保てたこともあり家族も穏やかになられ、面会の回数や面会時間が長くなり、徐々に関係の改善が図られている家族もある。多数の家族と利用者の関係は良好なところが多い。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が一番強く思う場所を訪れたり、その場所で昔ながらの友人に出会ったりとできる支援を行ったり、若い頃なのか若い頃の思い出のお祭りに行ってみたり、可能な限り支援を試みている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士好き嫌いがあってもおかしくないと考え、職員がクッションの役目を果たし、円滑な利用者同士の関係が保てるように努めている。要介護1の方が要介護4の方のお世話をしたりする姿があったりと自然と関係が家族のようになっていくことも。お互いが助けあい、支えあって声を掛け合う姿を見かけることがあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>医療ニーズが高まり、継続的な利用が困難になった利用者の面会に職員は積極的に訪れ、利用終了後も職員の強い思いが表れている。これは、運営者や管理者の指示ではなく自発的に職員が行動しており、職員の意識が向上してきた成果だと感じる。また、退去された方や亡くなられた方の家族との交流も続いており、折々に手紙を出したり、電話をいただいたり、野菜をたくさん届けてくれたりと良い関係を続けられている。</p>			
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	○	出来ることと出来ないことの見極めをしっかりと行い、出来ることを維持できるようにしたい。
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記載し、毎月の会議にて職員全体で実践状況を報告し、ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ柔軟に対応できるように努めている。独居の自宅の布団干しや、簡単な掃除、郵便受けの確認を行ったり、病院へ通院する場合の送迎付き添いを場合にに応じて行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の理髪店に月1回来て頂いている。幼稚園・小学校・中学校と協力し様々な活動を行っている。ボランティアにも随時きていただき話し相手や散歩の付き添い等、協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の介護サービスは利用できませんが、地域の老人会へ顔を出したり、地域の行事へ参加したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要な対象者がいない。	○	今後定期的な話し合いの場がもたれる予定
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先し、かかりつけ医を決定している。施設は利用者の心身の状況の変化や日々の健康状態などの情報を提供し適切な医療が受けられるようにサポートしている。大分市内のかかりつけ医の方もおられ送迎付き添いも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>社内研修や定期研修、ミーティング時に注意を促している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>常に本人に希望をとり、意思決定できるように促したり、家族の意向を伺った上で支援するように努めている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>その日に限らず、どのように生活したいか(散歩に行きたい。どこか遊びに出掛けたい。どんなレクをしたい。)などを取り入れて極力意向に沿えるように配慮している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>元気な頃は馴染みの美容室を利用していたが、現在は身体的な衰えに加え金銭的な問題から訪問理髪店を利用する方が多い。髪染めを希望する際は家族と相談しこちらで染めたり、家族が染めたり本人と家族がどうしたいのかによって、それぞれ違う対応をしている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食事の準備を役割の一つとして捉え、配膳、お膳拭きなど利用者の心身の状況に配慮し分担を行っている。食材の下ごしらえなども手伝っていただいている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>開設当時は喫煙ができていたが、長崎の火災を機に利用者の禁煙を行った。飲酒については、利用者の健康状態に配慮し適度に飲酒している。おやつは、リクエストにこたえて、希望のおやつを手作りしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を心の傷にしないため、他者に気付かれないように対応し極力オムツを使用せず、トイレで排泄できるようにしている。排泄記録をとり、排泄パターンを把握しペースに合わせ誘導を行っている。リハビリパンツからパンツへ移行できるように努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決まっているが、職員を増員し、一人ひとりの希望に添えるようにしている。また、汚れた都度行っているので、一日に何回も入浴される方もいらっしゃる。入浴が楽しみ季節を感じられるように、ゆず湯やしょうぶ湯等行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前に使い親しんだ馴染みの寝具を持ってきていただき、落ち着いて休めるようにしている。室内環境の整理、布団干し、シーツ交換も天気の良い日に行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性には、食事の下ごしらえ、配膳、お膳拭き洗濯物たたみ男性には、力仕事(うどんの麺切り)レクリエーションの準備をしていただいているが、一人ひとりの希望や好みを反映させる為カラオケや運動、散歩など楽しめるようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援のサービスとして外出して自分で欲しいものを自分で決定し、自分でお金の支払いをする支援を行っている。日常的には施設内に売店を設け、欲しいものを購入する機会を設けている。(ただし、購入できる個数をチェックし、買ったものを職員が把握しており栄養バランスや食べ過ぎによる体調不良を防げるようにしている。)		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば散歩に出かけたり、庭に出たりする。本人の希望だけでなく天気の良い日は職員が働きかけて、散歩にでかけている。日中玄関には鍵がかかかっていないので閉鎖的にならず、開放的でいつでも外に出られる環境にしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を選んでひだまり荘のバスで定期的な外出を行うようにしている。(田ノ浦海岸、高塚地蔵尊、大分空港、七瀬川公園、湯布院、豊後高田昭和の町、佐賀関、佐野植物公園、芹川ダム、男池、デパートなど)	○	車椅子の方でも行ける所を探していこうと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望や家族の依頼があった場合は電話ができるように支援している。年2回暑中見舞いや絵葉書を書いたり、年賀状をき、家族や知人に、近況や想いを伝えている。その他、本人の希望時に手紙を書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気兼ねなく訪問できるように、お茶に茶菓子を出す程度にし、団欒の邪魔にならないように自由に過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修内容に身体拘束について行い、身体拘束をしないという意思で取り組んでいる。したがって、やる気が出なくなるような薬の使用は医師と相談し、減量するか無くし、薬に代わる手法を試みるように努めている。身体拘束はこれまで、行った事はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員にはグループホームでの認知症ケアの在り方として、鍵を掛けないケアのメリットを理解し浸透させている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見張られていると思われないようにプライバシーには十分配慮したうえで、自然と所在の把握と安全確認ができるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲の危険性のある利用者を把握した上で、その都度臨機応変に判断している。 洗剤や包丁などの刃物も同じように、利用者の心身の状況を把握した上です。通常は目に見えない程度に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災についての研修を行っており、個別の心身の状況を把握し防止に取り組む。ヒヤリハット記録を元に、事故の起こる危険性を十分理解するようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地域住民の方も協力的であるが、連絡体制がまだできていないので、今後運営推進会議で検討していきたい。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念にあるように、信頼関係を築く為、職員一同日々努力しています。

職員側からの見方ではなく、入居者の目線に立った見方で、介護ができるように、職員で話し合いをしています。

入居者のこれまでしてこられた普通の生活をこれからも同じように提供できるようにしていきたいと考えています。

職員が第二の家族と思ってもらえるように頑張りたいと思います。

34人乗りの観光バスを購入し、月に1～2回外出をしています。

みんなでバスに乗って出掛けるのは、非日常的で老若男女問わずワクワク・ドキドキするもので、皆さんに大変喜んでもらっています。